



成城大学

〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20
入学センター TEL 03-3482-9100
https://www.seijo.ac.jp/

PICK UP 2028 年完成予定の「学びの拠点」新校舎 10 号館

(1) 澤柳政太郎 (1865-1927)

成城学園創立者。文部省の官僚であり、教育学者あるいは思想家としても著名。大正自由教育運動で中心的役割を果たす。文部次官のほか東北帝国大学初代総長、京都帝国大学総長なども歴任。文部省の局長時代には義務教育の4年から6年への延長、小学校の教科書の無償化を行うなど、わが国の教育制度の整備に大きく貢献した。さらに東北帝国大学総長在任時に、日本で初めて、帝国大学への女子の入学を認めたことでも知られる。

(2) 成城国際教育プログラム (SIEP)

「Seijo International Education Program」の略。世界共通言語である英語により、グローバル社会で求められる幅広い教養や知識、コミュニケーション能力を身につけ、海外留学・海外インターンシップを目指す。



2028年完成予定の新10号館は「個性尊重」の理念を体現する新たな学びの拠点です。キャンパスの中心に位置し、大学生はもちろん、幼稚園から初等学校、中学校高等学校まで、成城生が日常的に交流する開放的な空間となります。4学部4研究科をはじめ、世代や分野を越えた多様な発想が交わる

場を目指し、大小さまざまなラーニングコミュニティを整備。学修・発表・議論・交流が自然に連鎖する環境により、学生の主体的な学びを促進します。さらに、豊かな自然と調和した外観デザインと環境に配慮した設計を採用し、これからの学校施設のあり方をリードする「Place」を目指します。

個性尊重と「学生中心主義」のもと、 伝統のゼミと充実の理数系・国際教育で 自分らしく社会に貢献する人材を育成



すぎもとよしゆき
杉本義行学長

1983年東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程中退。農学博士(東京大学)。千葉大学講師、成城大学経済学部教授、副学長などを経て2022年より現職。

SUMMARY

文部次官や東北・京都帝国大学総長などを歴任し、近代日本の教育制度の礎を築いた澤柳政太郎博士⁽¹⁾が、「本当の教育」を実践する実験校として1917年に創立した成城学園。その建学の精神を受け継ぐ成城大学では、教育・研究の柱である伝統のゼミナールをはじめ、人文・社会科学系大学として先駆的に導入したデータサイエンス科目群や独自の国際教育プログラム「SIEP」⁽²⁾など、学習者本位の教育を展開しています。

体験的な学びと学生の自治・自律を尊重する風土のもと、一人ひとりの個性を育み、卒業後は自分らしさを生かしつつ、多様な人々と協働しながら社会に貢献できる人材を育成しています。

01 「学生中心主義」で 先進的な大学改革を展開

成城学園の歴史は、1917年に「科学的研究を基とした実験学校」として開設された私立成城小学校に遡ります。2005年には日本で初めて学部名称に「イノベーション」を冠した社会イノベーション学部を開設。2015年には人文社会科学系大学としてはいち早くデータサイエンス科目群を全学的に開講するなど、先進的な教学改革を推進してきました。その根底にあるのが、学園創設者・澤柳政太郎の「個性尊重」の思想であると杉本義行学長は話します。

「この個性尊重には二つの意味があります。一つは個々の学習者の学び方の尊重、少人数教育による『個別最適化』の教育であり、もう一つが『他者の個性の尊重』です。これこそは多様性、包摂性の教育であり、現代のSDGsの考え方に通じるものと言えるでしょう。幼稚園から大学院まで、異年齢の児童、生徒、学生がワンキャンパスで学ぶ環境も、学生にすぐれた影響を与えていると思います」

この理念は、学生を起点に大学づくりを進める『学生中心主義』にも繋がっています。

「成城大学では学生の声を聞き、より良い学びの環境を実現することを目的として2021年度から『学長賞懸賞コンペティション』を開催しています。2024年度の最優秀賞には、学生ホールを低予算で装飾し、学生同士がさまざまなイベントを企画・開催できる交流空間の創出を提案したチームが選ばれました。また、2025年度は、自然災害とともに生き抜く力を養い、災害時に主体的な行動へとつなげる体験型災害対策講義を提案したチームが最優秀賞を受賞しています。提案だけで終わるのではな

く、学内外の人々と協力をしながら目標を実現する学生たちの行動力に毎年感銘を受けています。成城大学の自慢は学生です。これから学生ファーストの大学改革を進めていきます」と杉本学長。また、高大連携にも積極的に取り組む、現在14校の高等学校と協定を締結。相互の教育の質向上・活性化を目指しています。

02 データサイエンス科目で 「理数系教育」を強化

学生を対象にデータサイエンス関連科目を開講しているのも成城大学の特徴です。所定の科目を修了した学生にディプロマを発行する「データサイエンス基礎力育成・認定プログラム」は文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」および「同プログラム(応用基礎レベル)」に認定されています。

「社会課題に取り組むには批判的思考、すなわちクリティカルシンキングが必要ですが、そこで大切なのが、エビデンス(根拠)を提示したり吟味する力です。また、社会課題の解決には多様な考え方が必要です。本学ではデータサイエンス領域をしっかりと学び、ともに、分野横断的な科目や、課題解決型科目の充実をさらに図っていきます。その一例といえるのが、文芸学部国文学科の小林ゼミとデータサイエンス教育研究センターが共同して実施した課題解決型授業です。キャンパス内の樹木のうち、萬葉集に収録されている和歌に登場する樹木を選んで和歌と歌人名を記した萬葉歌プレート(銘板)が設置されています。小林ゼミの学生たちはこの萬葉歌プレートにある和歌の解説文の執筆と、キャンパスを模したメタパス空間の制作に挑戦し、メタパス空間内をアバターが移動しながら和歌を楽しめるコンテンツを制作し

ました。国文学の知識とデータサイエンスのスキルを融合させて体験的に学ぶ経験となったようです」(杉本学長)

03 「国際教育」の核「SIEP」 成城国際教育プログラム

グローバル社会で必要な幅広い国際教養とコミュニケーション力の習得を目指すのが、成城国際教育プログラム「SIEP」です。各目の英語レベルと留学期間に合わせた履修モデルを基盤に、専属教員による予約制の個別指導や、留学生と共に学ぶ英語開講科目などを受講。夏季や春季の休業期間を利用しての「海外短期語学研修」などもあり、グローバル社会で求められる幅広い国際教養やコミュニケーション力を修得した後、留学や海外インターンシップに臨みます。

「現在、留学先として北米、ヨーロッパ、アジア、オセアニアの大学と協定を結んでおり、毎年協定校の数を増やしています。SIEPの教育効果はIELTSやTOEFLなど英語外部試験での成績の向上を見ても明らかです」と杉本学長。特に海外インターンシップでは、現地で就業体験を行うだけでなく、企業研究や語学研修などの事前学習から企業担当者に向けた事後報告会まで、約8カ月をかけて語学力と就業力を養っています。

04 学生の自律的な成長を促す サポート活動

治自律を重んじる校風を象徴する取り組みが、学生による学生のためのサポーター活動。ファシリテーションの研修を受けた学生が学習の悩みやレポート作成などを支援する「ピアサポーター」はJASSO(日本学生支援機構)の調査報告書^(※)で

先進事例として紹介されるなど、高い評価を受けています。このほか、国際交流、キャリア、バリアフリー、ライフラー、データサイエンスなど幅広い分野で学生が活躍しています。

05 民俗学からジェンダー問題、 治療的司法まで多彩な研究拠点

度で先進的な研究・教育を行う機関として、4大学院研究科・10専攻に加え、日本民俗学の創始者・柳田國男の蔵書を中心に約10万冊の図書や民俗資料を所蔵する「民俗学研究所」や「経済研究所」「アローカル研究センター」「国際編集文献学研究センター」「スポーツとジェンダー平等国際研究センター」、日本初の「治療的司法研究センター」が多彩な研究活動を行っています。

06 独自のキャリアサポートで 生涯を通じた「就業力」を育成

界の情勢を見ても、私たちが歴史の上の大転換期真っただ中にいることは間違いありません。10年後、20年後の世界が分からない現代においては、知識やスキルだけでなく、多様な人々と対話し、課題を解決する能力が求められます」と杉本学長。成城大学では、地域の現場で課題を学び、解決策を考える「地域課題型スタディツアー」や、人材育成企業との協働によるキャリアサポートプログラム「澤柳塾」を開講。こうした取り組みにより、企業の人事担当者による就業力ランキングでも高い評価を獲得しています。「大学では決して失敗を恐れず、安心してさまざまな経験にチャレンジし、より深い学びを手につけてください。本学では皆さんが成長するためにワクワクして学べる機会を用意しています」と杉本学長はエールを送っています。

(※) 2021年度および2023年度